

シリーズ

遺伝子組み換え食品とは？

帶刀益夫（東北大学名誉教授）

第3回 狩猟採集民から定住へ

食性と脳の肥大化を

起こした一つの

遺伝子変異

古代人類はチンパンジーと同じ様に強力な咀嚼筋肉をもつていましたが、ホモ属の古代化石や現代人の咀嚼筋肉はかなり小さくなっています。その原因是、240年前にホモ属が咀嚼筋肉の一種の遺伝子が変異を起こして消失しましたからです。咀嚼筋肉が減少すると、頭蓋が大きくなり、それにともなった脳の大きさの増加をもたらしたと考えられています。この頸の咀嚼力の变化は、結果としてホモ属との類人猿との食性の違いにつながり、さらに大きな脳の

活動を維持するために必要となる栄養の摂取の変化へとつながりました。また、菜食主義者から肉を含む雑食や火を使う調理への変換とも関係していました。

ホモ・サピエンスが

世界中のすべてに

現代人の先祖

現代人の先祖となるホモ・サピエンスは17万年前の最も厳しい氷期に、総人口が1万人まで落ち込んで人類が絶滅しそうになつたあとに誕生しましたと考へられています。ホモ・サピエンスとは「叢知をもつ人」という意味です。このころの人類は、火を使い、石器等の道具を使い、ある程度の文化をもつようにな

農業の始まりまで 農業はおよそ1万年前始まつたのですが、それは人類史において最も重要な出来事です。それは、人類がそれまでの狩猟採集生活により食料を集めいろいろな場所を転々と移動するという不安定な生活から、穀物となる植物の栽培や、家畜としての動物の飼養を開始したことで、食料の安定的な確保ができるようにな

るが、2万年前ごろにはアメリカ大陸にも到着し、地球全体へと広がつてゆきました。

狩猟採集民から

農業の始まりまで

現代人の先祖

シリア・イスラエル・パレスチナ・ヨルダンを含む地域で、現在は砂漠と戦乱で不毛の地域ですが、もともとは「肥沃な三日月地帯」と呼ばれ、この地域は農業の開始だけなく、その後も世界歴史の中心地としてメソポタミア、古代エジプトといった多くの古代文明が栄えた地域であります。

この地域の1万5年前と確定される遺跡の発掘から、当時の狩猟採集民が採取食料を

しかし、最終氷期末期後に訪れた温暖化の恩恵に浴して、この安定した幸福な状態は、その後に気候上の大変動が起きたことで危機を迎えたのです。

全国の運動に呼応して

戦争法案 NO

池田町でも行動します

日本を「海外で戦争する国」にする戦争法案の国会審議は、緊迫の情勢となつています。この憲法違反の法案をなんとしても廃案にしよう

と、全国各地で様々な取り組みがされています。

中央で連日奮闘している「戦争させない・9条壊すな！」総がかり行動実行委員会」は、30日に「国会前10万人・全国100万人大行動」を呼びかけています。

9.10池田町民集会
9月10日(木)
午後7時～8時30分
池田町公民館2階
◆講演
◆呼びかけ人スピーチ
◆決議採択他

軽トラ平和パレード
9月5日(土)
午前10時
池田町役場前出発
(集合午前9時)
パレードの要綱、申込書あります。
お問い合わせください。



和パレード、9月10日、「池田町民集会」を計画しています。「戦争だけはイヤだ」「誰の子供も孫も戦場にはいかせない」この思いのみなさん、一緒に「戦争法案廃案」の声を上げましょう。

コラム有明

昭和20年生まれ、古希となつた私は戦後70年の歴史を歩んできた。この夏

いくつかの催し物に参加したが、特に印象に残つたのは15日に行われた「わだつみのこえ戦後70年の集い」である。平和をテーマにした作文が県内高校生から700通応募があり、発表・表彰された。ある高校は平和ゼミ活動の報告、また上原良司に参加する放送部の映像作品も上映された。▼多くの高校生が平和について考え、学習し発表していることを知つた。戦後処理の日本とドイツの違いをレポートし、日本政府の不十分さを告発する。そして意見の共通点は「安保法案」の危険性を鋭く指摘している点だ。▼それにくらべ

「戦後70年安倍談話」の何と空虚なことか。文字ずらでは「痛切な反省」「おわび」を使つているが、自らの言葉として語らず過去の談話を引用するのみで、主体の無いあいまいな文章は、国内外から厳しい批判が出されている。村山元首相は「植民地支配・侵略を率直に謝る文になつていない」と切り捨てる。高校生の作文を読んでほしいものだ。

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天氣にな～れ

166号
2015年8月
部内資料
発行責任者 太田 勅 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)
編集責任者 山本 久子 (61-1066)

日本に拡散、「戦争法案に反対する宗教者・門徒・信者全国集会」日本弁護士連合会は「安保法案廃案・立憲主義を守り抜くパレード」日本婦人性のつどい」「100大学有志共同行動」「安保法案反対学者の会」etc、そして各地方でもユニークな取り組み

っていましたが、食料を得るためにには、狩猟採集民として、獲物や穀類や果物などを求めて広い地域を移動します。気象変動が起きたり、食料が不足すると絶滅する種族も出てきますが、移動を重ねて紅海をわたつてアフリカ大陸から脱出し、中近東、さらにヨーロッパ、アジアへと広がりました。

その結果、人々は同じ場所に定住できるようになり、集団として住むことで人間社会が形成され、人口の増加も始まります。そして、その後の都市の成立や交易の始まりへ繋がり、最初の「文明社会」の基礎ができあがることになります。

この地域は、最終氷期末期後に訪れた温暖化によつて、後に利用でき、さらに保存狩猟採集民は、これらを食料として利用でき、さらに保存の容易な食糧があつたという幸運のため、狩猟採集民でありながら、何世代にもわたつて同じ場所に住むことが可能となつたと思われます。

そして、ある程度長く気候バント地方を例として説明しましょう。

シリア・イスラエル・パレスチナ・ヨルダンを含む地域で、現在は砂漠と戦乱で不毛の地域ですが、もともとは「肥沃な三日月地帯」と呼ばれ、この地域は農業の開始だけなく、その後も世界歴史の中心地としてメソポタミア、古代エジプトといった多くの古代文明が栄えた地域であります。

レバント地方とは、現在のシリアル・イスラエル・パレスチナ・ヨルダンを含む地域で、現在は砂漠と戦乱で不毛の地域ですが、もともとは「肥沃な三日月地帯」と呼ばれて、この地域は農業の開始だけなく、その後も世界歴史の中心地としてメソポタミア、古代エジプトといった多くの古代文明が栄えた地域であります。

シリア・イスラエル・パレスチナ・ヨルダンを含む地域で、現在は砂漠と戦乱で不毛の地域ですが、もともとは「肥沃な三日月地帯」と呼ばれて、この地域は農業の開始だけなく、その後も世界歴史の中心地としてメソポタミア、古代エジプトといった多くの古代文明が栄えた地域であります。

条件は良好だったでの、収穫の多い時期には彼らの貯蔵庫は食糧で満たされており、ときとして見舞われる短期の干ばつや、木の実が不作の年も起きています。

農業はおよそ1万年前始まつたのですが、それは人類史において最も重要な出来事です。それは、人類がそれまでの狩猟採集生活により食料を集めいろいろな場所を転々と移動するという不安定な生活から、穀物となる植物の栽培や、家畜としての動物の飼養を開始したことで、食料の安定的な確保ができるようになります。

しかし、最終氷期末期後に訪れた温暖化の恩恵に浴して、この安定した幸福な状態は、その後に気候上の大変動が起きたことで危機を迎えたのです。